



妻北っ子だより

令和4年度 夏休み直前号 文責 校長

1学期は授業日数にすると70日でした。遠足・田植え・宿泊学習・音楽鑑賞教室は計画通り実施できました。しかし、コロナ感染対策と熱中症対策の両面によって、屋外運動や体育活動の制限をしたり、やむを得ず学級級閉鎖や出席停止等の措置をとったりすることで、子ども達が計画通りに学習活動に参加することが難しい1学期となりました。

(参観日・PTA奉仕作業も変更・中止になりましたね。)

「学びの保障」については、夏休みの家庭学習内容に盛り込んだり、2学期の学習計画を工夫し、消化できていない内容を優先して授業に取り入れたりするなどして、対応していきたいと考えています。

「計画的に」とは言いますが・・・

1日24時間は、私たちに平等に与えられているものです。あることに夢中になったり、ときめいたりして時間の経過を早く感じたりすることもあれば、

「まだ5分しかたってないのか?」と感じたりすることはありますか?

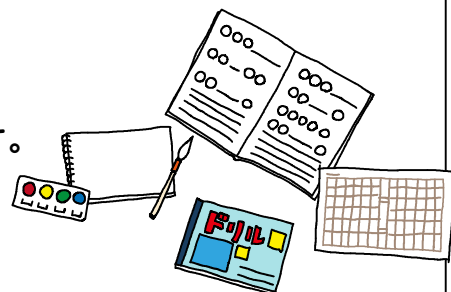
特に、「面倒くさい」とか「人からやらされてる」という意識があると、その作業自体も、面白くないし、時間ばかりが過ぎてしまう経験を私もしたことがあります。

できるだけ楽しく効率的に活動するために、「今日は9時から、学校だよりを作成する」「11時30分までには終わらせる」「終わったら美味しいコーヒーを飲む」といったためあてや自分へのご褒美を設定することがあります。

もちろん、時間通りに終わることは難しいですが、ある程度計画通りに進めることができると、気持ちがスッキリすることが多いです。

これから夏休みに入ります。お家の人はお仕事で、家の中は子ども達だけという場合も想定されます。「今日は、お家の人が帰宅するまでに、○と△は終わらせておく」とか、「○と△と◇まで終わらせることができたなら、□ができる」といった約束をして出かけるという方法も活用してみてください。

「できていなければ、できているところまでを認め、どうしたらできるようになるか一緒に考える」というやり方もありますよ。



左右確認

先日、交通指導員さんから「登下校」のことでご指導いただきました。「班長さんは『左右確認』の号令をかけているが、目や体が確認していない。」というご指摘でした。

横断歩道は、歩行者優先であり、運転者には横断歩道手前での減速・停止の義務があります。(道路交通法第38条)

とは言え、登下校中に交通事故に遭う可能性は、0(ゼロ)ではありません。あらゆる感覚を使って安全確認させ、ひとつしかない「命」を守りましょう。

夏休みこそ「コロナ対策」を

再三、ご案内しお願いを行っているところですが、コロナウィルスの厄介なところは、「感染力の強い」ことです。（7月13日県内の感染者が、1100人を超えました。）

また、「初期症状が分かりにくい」ことも特徴のひとつで、発熱症状、のどが痛い、体がだるいといった症状があったら、外出（登校）を控え、まずは検査を受けましょう。陰性と判定されても、症状が治まるまでは外出（登校）を控えましょう。

そして、「いつ、どこで感染したかを突き止めにくい」ということも挙げておきます。お盆旅行、海・山・川へのレジャー、少年団活動、お祭り等の活動が予想されますが、「感染した」「感染しているかもしれない」「濃厚接触者にあてはまるかもしれない」と思われたら、外出（登校）を控え、検査を受けましょう。

学校は、保健所・医療機関ではないので、「～しましょう」という表現しか使えません。ただ、一人一人が、より慎重に意識するだけで、7月上旬のような措置（2クラス学級閉鎖）をせずに済んだかもしれないという思いをもって記述しました。

学校では、2学期に控えている様々な行事（運動会・修学旅行等）計画を夏休み中に検討しますが、「この行事でクラスターが発生したら」という心配が先立つところです。

「学級閉鎖（自宅待機）は、ただの休みではなく、学校内での学び、習い事やお出かけ等の楽しい計画をストップさせてしまいます。」

熱中症対策も大事ですが、「コロナはまだ収束していないこと」を、ご家族・ご近所・お友達同士で再確認し、自宅待機のない夏休みにしていただきたいと切に願っています。



いつ開花するのか、楽しみにしていた「オオガハス」ですが、微妙な気候の変動に左右されやすいというデリケートな特徴があり、本年度の開花は難しかったようです。

開花すると左のような美しさです。

（昨年度、6月中旬撮影）

来年こそは、咲いてほしいですね。

子どもたちはブランコが好き

賛
否
両
論

どこかの機会でお知らせしようと思っていたことです。

検食（給食前に管理職が児童の食べるメニューを実食し点検すること）を終え、昼休み前に遊具点検がてら、運動場を散策していたころでした。

昼休み始まりのチャイムとともに、一斉に運動場に駆け込んでくる集団があります。「どうやら6年生だな？」と試してみていると、到着したのはブランコ。

その後も、たくさん子どもたちがブランコに押し寄せてきては、「とられたあ」とか「先をこされたあ」と残念がっています。

子ども達に「そんなにブランコが好きなの？」と声をかけると、

「みんな大好きです。校長先生、もうひとつブランコを設置してください。」

とせがまれてしまいました。

